

平成 3 1 年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人十四世六平太記念財団	
施 設 名	十四世喜多六平太記念能楽堂	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	9,674	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	3,871	(千円)
普及啓発事業	5,803	(千円)

(2) 平成31年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	Noh Training Project TOKYO 2019	2019. 6/12-7/19	海外の演劇人を対象に能のメソッド を指導する3週間の集中講座	目標値	25
		喜多能楽堂、新宿村		実績値	24
2	武蔵野大学 インターンシップ	2019. 9/12-9/28	武蔵野大学文学部学生を対象とする インターンシップ	目標値	15
		喜多能楽堂		実績値	7
3	能楽インタプリタ 養成講座	2020. 2/14	通訳やガイドに携わる方を対象に能 の要素を一通り教授する講座	目標値	40
		喜多能楽堂		実績値	40
4	喜多アカデミー2019	2019. 5-2020. 3	若手能楽師を対象とする集中稽古と 公開講座で構成する人材養成事業	目標値	実技 10 公開講座 150
		喜多能楽堂		実績値	102人 (公開講座)
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第6回 品川能楽鑑賞会 品川薪能	2019.5/28	地元品川区民に能楽に親しんでいただくための薪能公演	目標値	800
		きゅりあん大ホール		実績値	674
2	第5回 親子能楽鑑賞会	2019.8/24	子供たちの能楽体験と公演観賞を合わせた親子で楽しめる企画	目標値	200
		喜多能楽堂		実績値	183
3	杉野服飾大学共催 能楽講座 vol.6	2019.6/6,7/11,9/13	能装束について大学講義出講と能楽堂での実演を合せた学生対象の講座	目標値	講義・80 ×2回 公開講座100
		杉野小H,喜多能楽堂		実績値	189
4	第4回 手話で楽しむ 能狂言鑑賞会	2019.9/8	手話狂言と手話同時通訳付能の上 演 障害者と健常者が共に楽しむ企画	目標値	250
		喜多能楽堂		実績値	197
5	武蔵野大学共催 能と土岐善麿 その5	2020.2/18	土岐善麿の新作能と講演で構成す る武蔵野大学文学部との共催企画	目標値	300
		喜多能楽堂		実績値	202
6	喜多能楽堂体験ツアー	2019.7/2-2020.1/25	能の所作や発声、面装束や楽器など の体験も交えた能楽堂体験ツアー	目標値	各回 20~100 (全5回)
		喜多能楽堂		実績値	210
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>能楽喜多流の活動の本拠地である十四世喜多六平太記念能楽堂（喜多能楽堂）は地震災害と戦災による2度の消失を経て昭和30年に現在の品川区上大崎の地に拠を定め、昭和48年には前々年に亡くなった十四世宗家の名を冠して建物を新装し今日に至っている。</p> <p>専ら流儀の修練の場として運営されてきた能楽堂を維持管理してきた財団が平成23年公益認定を受けたのを機に能楽を公共財として捉え直し運営方針を拡大転換、自主事業に取り組み始め地元自治体の品川区との連携を進めながら今日に至っている。</p> <p>能楽堂を能楽という公共財に対しあらゆる人のアクセスに応える劇場として位置付け、運営、事業計画にあたっては3つのミッションを設定している。</p> <p>【1】 能楽の着実な伝承・・・先人から受け継いだ伝統を着実に次代に繋ぐ 【2】 地域の文化拠点・・・地域の文化政策と連携し、地域に能楽を提供する 【3】 国内外への発信・・・日本を代表する伝統文化を国内、海外に発信する</p> <p>平成31年度もこのミッションに基づき、</p> <p>①正統な伝承を公開する公演、②次代を担う実演家を育成するための公演、③若年層に能楽に触れていただく体験付き公演、④外国人を対象とする集中講座、⑤障害者と健常者が共に楽しめる公演、⑥大学との連携、⑦普及人材の養成</p> <p>の7分野の事業を企画し予定通り実施した。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>① 正統な伝承を公開する公演・・・品川薪能を開催。品川区との共催による恒例事業として定着。</p> <p>② 次代を担う実演家を育成するための公演・・・新たに喜多アカデミーを発足。修行中の若手の育成とともに、公開講座も開設し新たな若年観客層、愛好者を開拓した。</p> <p>③ 若年層に能楽に触れていただく体験付き公演・・・親子能楽鑑賞会は地元子供たちにとっての恒例行事となったうえ地元親子観賞団体との共催事業に発展した。また区内小中学校の児童生徒を迎える事業も実施。</p> <p>④ 外国人を対象とする集中講座・・・世界の演劇人対象の集中能楽養成講座を実施。他に例の無い能を世界に発信する取り組み。</p> <p>⑤ 障害者と健常者が共に楽しめる公演・・・能一曲の上演に手話同時通訳を付けるという実験的取り組み。健常者からの反響も大きい共生社会へのひとつの提案企画として評価された。</p> <p>⑥ 大学との連携・・・隣接大学への講義出講、大学の特別講義としての共催企画、また大学生インターンシップを実施。教育機関との連携が深化。</p> <p>⑦ 普及人材の養成・・・通訳やガイドなど日本文化を紹介する業務にあたる方に能楽の知識を学んでいただく講座を開催、外国人参加者を迎えた実践の場を提供した。</p> <p>以上すべて運営の精度を上げ内容を深化させながら毎年回を重ねて実施を続けている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

■ 3つのミッションと目標

【ミッション】	【目標】
1. 能楽の着実な伝承	①正統な伝統を次代へ継承する公演の開催 ②幅広く共演者を迎え能楽界全体の水準向上に寄与 ③能楽への理解、共感を深めるプログラムの実施
2. 地域の文化拠点	①地域顧客の動員 ②地域自治体、関係機関の支援、連携
3. 国内外への発信	①着実な観客動員 ②新規顧客の開拓 ③外国人顧客の開拓 ④広報の展開

■ 指標と評価方法

【活動指標・成果指標】	【評価者】	【評価方法】	【指標】
① 事業の目標、質の達成	事業部長	ヒアリング	5段階評価
② 顧客満足度	観客・参加者	アンケート	5段階評価
③ 地域顧客動員	観客・参加者	アンケート	占有比率
④ 地域の支援、連携	事業部長、館長	ヒアリング	5段階評価
⑤ 観客動員	事業部長、館長	着券集計	入場率
⑥ 新規顧客動員	事業部長、館長	アンケート	占有比率
⑦ 外国人顧客動員	事業部長、館長	アンケート	占有比率
⑧ 広報展開	広報担当	ヒアリング	5段階評価

■ 実績評価

【指標】	【人材養成事業・実績/評価】	【普及啓発事業・実績評価】
①	5/質の高い成果	5/質の高い成果
②	5/いずれも高い評価	5/評価5が80%
③	(該当事業無し)	70%/事業番号1,2の占有率が高い
④	5/事業番号3観光協会の連携	5/事業番号1,2,3,6での成果が大きい
⑤	75%/事業番号4公開講座の動員が課題	80%/いずれも着実な動員を達成
⑥	60%/事業番号3,4の比率が大きい	80%/いずれも比率が大きい
⑦	70%/事業番号3,4の比率が大きい	0/動員が無かった
⑧	3/事業番号1,1社取材	3/事業番号1,6区側メディアの実績

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■事業期間

【人材養成事業】

1. Noh Training Project TOKYO 2019

実施時期が定着しリピーターの参加が多い。新たなオプションプログラムも加えたが予定通り実施。

2. 武蔵野大学インターンシップ

大学側のスケジュールとの調整により例年順調に受け入れを実現。予定通りのプログラムを提供した。

3. 能楽インタプリタ養成講座

オリンピックイヤーを視野に入れた時期に実施できた。しながわ観光協会やインバウンド旅行事業者の協力も得て外国人を動員し参加者にとっては実践の場を提供することとなった。

4. 喜多アカデミー2019

当初計画通りに完了。公開講座は好評を受け次年度第2期に繋がった。

【普及啓発事業】

1. 第6回 品川能楽鑑賞会 品川薪能

野外公演に絶好の時期を狙って予定したが雨天のため屋内会場に移して実施となった。

2. 第5回 親子能楽鑑賞会

例年通り夏休みの時期に開催。恒例行事として地域にも定着している。

3. 杉野服飾大学共催能楽講座 vol.6

大学側のカリキュラムの一環として例年通り実施。

4. 第4回 手話で楽しむ能狂言鑑賞会

例年通り補助サービス提供事業者の協力も仰ぎ当初の計画通り実施した

5. 武蔵野大学共催 能と土岐善麿 その5

大学側の公開講座として例年通り連携実施。

6. 喜多能楽堂体験ツアー

地域の小学校や生涯教育との連携により実施。年間実施予定回数を消化した。

■事業費

【人材養成事業】

予算比96.9%

【普及啓発事業】

予算比94.1%

いずれも当初予算計画と大きな差異なく事業を完了した。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

■ 3つの資源

文化拠点としての喜多能楽堂の保有資源を3項目に措定する。

【1】舞台（文化財級の能舞台）

前田青邨監修による鏡板を擁し、最高級の尾州檜で敷き詰められた喜多能楽堂の舞台はそれ自体文化財としての価値をもつものである。

【2】レパートリー（伝統文化の精華）

常時上演可能なレパートリーを約150曲保有しているとともに、能は単に一演劇のジャンルに止まらない日本の文化の集積である。

【3】フランチャイズ（専属能楽師）

能楽堂を拠点に活動する喜多流能楽師は実演家であると同時に教育・指導のプロフェッショナルでもある。

■ 資源の活用

【1】舞台

能楽堂体験ツアーを開催。区内小中学校の児童生徒が初めて能楽堂を訪れ舞台に立つ感動を満喫。また品川区の生涯学習事業に参加するシルバー世代の方々、品川区教育委員会が引率する文化財探訪ツアーの親子参加者を迎え、能舞台という一般的な舞台とは全く異なる空間を発見、体感いただいた。また通訳やガイドなどの業務にあたるの方々のための講座でも舞台体験を組込むなど、劇場の中核資源としての能舞台の価値を広く提供した。

【2】レパートリー

能楽喜多流が受け継いできた曲目を年間公演である自主公演をはじめ公演、普及啓発事業で披露、上演曲は40番におよぶ。地域の初心者を対象とする品川薪能公演では初めて能に接した新鮮な感動の声が寄せられている。また能楽堂体験ツアーや能楽体験を合わせた普及系事業では面、装束から楽器等にも触れる機会を作るなど、日本の伝統文化のさまざまな要素を包含する能という文化資源を十全に活用した。

【3】フランチャイズ

喜多流能楽師は独立前の若手も含め約40名が能楽堂を拠点に活動しているが、彼らは実演家であると同時に一般愛好者に能を教授する教育、指導の専門家でもある。子供たちや外国人初心者を対象とする能楽体験を合わせた普及系事業では日頃の彼らの指導ノウハウが存分に発揮された。また能楽師のもつ高度な専門知識の提供も教育機関から求められている。

シーズン3年目を迎える海外の演劇人を対象とする集中レッスンでは、彼らの依ってきた西欧演劇手法との違いに戸惑いながらも、能楽師が言葉の壁を越えて熱心に指導を続け、外国人対象公演と合わせて、世界に向けて能の姿を発信する貴重な取り組みとなっている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

■地域のニーズと喜多能楽堂の役割

喜多能楽堂が位置する東京都品川区の文化政策は、平成22年3月にリリースされた「品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン」に基づき、文化スポーツ振興部文化観光課が中心となり進められてきた。その後品川区が2020年のオリパラ大会の競技開催地となったことを受け観光や教育等関連部門をあげて大きく政策が加速されることとなり、喜多能楽堂にも政策や事業への参画が求められてきている。一足早く「品川区都市型観光プラン」をまとめた観光分野では一般社団法人しながわ観光協会が中心となり、能楽堂体験ツアーの要望のほか区内観光スポットを紹介する地図やガイドブックへの掲載依頼、また教育委員会からは文化財探訪ツアーの依頼やオリパラ学習教材として区内小中学校で使われる副読本に区内の文化資源のひとつと紹介するなど喜多能楽堂への要望が増えている。とりわけ区民を対象に公演を続けていた「品川能楽鑑賞会」が品川区が進めようとしていた「東京2020公認文化オリンピックアード」プログラムの第1弾に認定され、長く途絶えていた薪能として復活、品川区長自らが火入れ奉行を勤めるなど品川区との共催による区の恒例行事になってきている。

平成30年6月には2020オリパラ大会を契機に区内文化芸術活動の振興を図り文化芸術資源・情報を共有、レガシーの活用を検討することを目的に「品川区文化芸術振興協議会」が発足し、喜多能楽堂も委員として区内の文化、教育、福祉等分野の委員とともに事業の実施や政策参画を求められ、また令和2年4月に策定された「品川区長期基本計画」には能楽堂が区の資源として明記され喜多能楽堂の地域の文化芸術発展へのさらなる役割が求められている。

■地域との主な取り組み（連携協働部門）

【1】地域政策

文化プログラム企画制作（品川区文化芸術振興協議会）

【2】地域事業

品川薪能開催、自主公演、青年能後援（文化観光課文化振興係）

品川能楽鑑賞会共催、広報協力（公益財団法人品川文化振興事業団）

【3】教育

自主公演、青年能、親子能楽観賞会後援（品川区教育委員会）

文化財探訪ツアー、放課後教室（品川区こども未来部）

親子能楽鑑賞会共催（NPO法人品川こども劇場）

【4】国際交流

外国人対象公演協賛、運営協力（地域振興部国際担当、公益財団法人品川区国際友好協会）

【5】観光

能楽堂体験ツアー実施、情報提供（一般社団法人しながわ観光協会）

【6】福祉

手話で楽しむ能狂言観賞会後援（社会福祉法人品川区社会福祉協議会）

【7】生涯教育

シルバー大学、しながわ塾講座開催（文化観光課生涯教育係）

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

■ 1 中期目標と事業サイクル

2020年度をゴールに、年間事業規模1億5千万、保有顧客4千人の達成に向けて2016年度より中期計画に基づく事業政策サイクル（①資金調達>②事業実施>③顧客開拓）を継続展開している。

【政策区分・過去3か年実績】

① 資金調達(単位千)

- ・維持会費収入 29年度(8,680) > 30年度(12,210) > 31年度(11,205)
- ・助成金収入 29年度(28,025) > 30年度(30,020) > 31年度(16,537)

② 事業実施(単位千)

- ・主催公演収益 29年度(21,759) > 30年度(19,670) > 31年度(19,290)
- ・普及公演収益 29年度(4,952) > 30年度(5,044) > 31年度(6,317)
- ・受託公演収益 29年度(11,156) > 30年度(31,039) > 31年度(24,661)

③ 顧客開拓

- ・維持会員(人) 29年度(1,205) > 30年度(1,162) > 31年度(1,085)
- ・賛助会員(社) 29年度(3) > 30年度(11) > 31年度(11)
- ・登録顧客(人) 29年度(2,045) > 30年度(2,659) > 31年度(3,090)

■ 2 財源確保

財団の財政基盤となる維持会員からの寄附に加え、4年前より新たに賛助会員制度を発足し、法人や団体からの支援が拡大している。

事業実施にあたっては文化庁の他地元品川区や東京都等からの助成を仰ぐとともに、事業内容に即して共催相手からの資金協力を得ている。

■ 3 組織体制

理事長>常務理事>業務執行理事のもと、事業部と財務部をおき、事務局長が管理部と広報部を管轄している。また館長が対外政策を担当するとともに、事業は専属の喜多流職分会が企画し事業部長が統括する。

毎月1回定例の運営会議を開催し、財務状況の検討、事業の計画、検証等を協議し中期目標の達成に向けて事業運営を進めている。